

第5回全国青年・女性漁業者交流大会開催される

去る三月八日、九日、東京虎ノ門パストラルにおいて「第五回全国青年・女性漁業者大会」が日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに広く研究討論を深めることによつて、漁業・漁村の活性化に関する技術・知識などを研鑽することを目的として開催された。

今回の大会は、全国から五十五のグループが参加し、五分科会に分かれて発表が行われた。本県からは、追良瀬内水面漁協サケ・マス部会の角谷武美さんが第二分科会の増・養殖部門で「二十一世紀におけるサケ・マスふ化放流事業の課題について―サケ・マス白神にのぼる―」と題して、また、大戸瀬漁協婦人部の熊谷タマエさんが第四分科会の環境保全部門で「浜と消費者を結ぶ「おさかな大漁定期貯金」―ハートと笑顔を大サービス―」と題して日頃の研究・実践活動について発表し、ともに全漁連会長賞を受賞した。追良瀬内水面漁協サケ・

マス部会及び大戸瀬漁協婦人部は、去る一月十三日青森市の青森公立大学で行われた第四十一回青森県漁村青壮年女性団体活動

実践発表大会で六人の中から優秀賞に選ばれ参加した。



角 谷 武 美さん



熊 谷 タマエさん